

会 議 録

会議名 (審議会等名)	平成24年度 第4回 川西市都市計画審議会専門委員会 (川西市都市計画マスタープラン検討委員会)		
事務局 (担当課)	都市整備部 まちづくり推進室 都市計画課		
開催期日	平成24年6月7日(木)		
開催場所	川西市役所 4階 庁議室		
出席者	委員 (敬称略)	澤木・松村・岡・水野・山本(信)・駒井・山本(眞)	
	関係人		
	事務局	竹田・畑尾・萩倉・茨木・前田・堀内・八尾・池田・植村・廣瀬	
傍聴の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数	0名
傍聴不可・一部不可 の場合はその理由			
会議次第	議 題 (1) 検討事項 都市計画マスタープラン検討案について(全編)		
会議結果	(1) 検討事項 別紙のとおり検討されました。		

第4回川西市都市計画マスタープラン検討委員会

日時：平成24年6月7日（木）19～21時

場所：川西市役所4F 庁議室

1. 全体構成について

<都市MPの位置づけ等について>

P. 2、マスタープランと上位・関連計画との関係を示す図の下の用語の解説は必要ない。上半分の都市計画（川西市決定）までが関係を示すものであり、都市計画の中身の説明は他のところでしたほうが良い。

全体構想、地域別構想の位置づけの図があるが、何章に書いてあるのかわからない。目次の代わりにともなるように追記したほうが良い。

P. 2の上半分はマスタープランのイメージがわきやすいが、上位になるものの記述が全くない。簡単に触れておくとながりがわかりやすくなると思う。

序 - 3 目標年次と見直しに、計画が進むと10年後の平成34年には川西市はこのようになっているということが書かれていればわかりやすい。

総合計画が一番上位にあり、まちづくりに関する部分を担うのが都市計画マスタープランということが分かる書き方にしないとイケない。総合計画の基本構想に即しているだけではわかりにくい。総合計画のほうで目標年次の将来像の記述はされないのか。そこで、このようなまちになってこのようなくらしが展開しているということが書かれていれば、それを引用できると思う。最初にそのイメージがあったほうが入りやすいかもしれない。

P. 4のコラム意図がよくわからない。

<都市づくりの目標、都市空間の将来像の位置について>

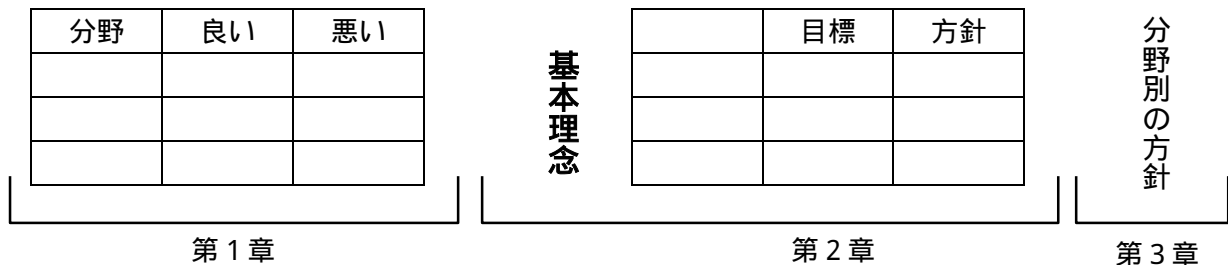
P. 20、2 - 1(2)都市づくりの目標とP. 21、2 - 2都市空間の将来像は違う話になるのか。

また、P. 33、3 - 1都市づくりのテーマにもP. 20と全く同じ項目があるが、間に挟まれた部分の位置づけはどうなっているのか。

○同じ表現の繰り返しが多く、イメージが固まらず、全体的に進んで戻ってという感じがする。

2 - 2都市空間の将来像がこの場所で良いのか。2 - 1(2)都市づくりの目標と3 - 1都市づくりのテーマの設定はほぼ同じ内容で、確かに目標とテーマの違いがよく分からない。また、2 - 2都市空間の将来像は、従来の都市マスの内容でこれがこの場所に入っていることに違和感もある。

再構成案の提案（板書）



<市民が読みやすい都市MPにする工夫>

先日、吹田市民の方とマスタープランの話をしたが、誰も知らないし見ていない。これをもらって読んでも何なのかわからないと思う。市民の方が気になるのは、プランがいつを目指しているのかということ。序 - 3 目標年次と見直しの時期については、いつを目指している、法律で決まっている等、普通の人を読んでわかる言葉にしてもらいたい。理解してもらえなければ誰も読まない。

文末に「しなければならない」「必要がある」「重要となってくる」などが多く、しないといけないことばかりのような印象を受けしんどくなる。市民感情としてはもっとおだててのせて、やろうと思える文章にしてほしい。

表現がくどく、文章が整理されていない。一方で、くどさも必要なのかもしれない。同じことを繰り返し書くことでみなさんにわかっていただけなのかもしれない。

2. 第1章について

<現状と課題について>

課題がどこに書いてあるのかわかりにくい。P.15の1-2本市の都市づくりの課題に表題があるが、かつての都市づくりの視点をここに入れただけ。いくら読んでも課題は出てこないのではやはり視点だと思う。

1章の現状と課題が2章につながっていくように整理してほしい。また、1章に課題だけでなく評価されている部分も入っていたほうが良い。評価と課題が一体となって2章につながっていくのではないか。

最初に課題と書きながら対応例として方向性が出てしまっている気がする。問題点的な見方の課題があり、それを解決するための課題があるが、後者だけを課題という解釈で書いてある気がする。まず、現状の問題や将来的に起こる問題、また良い評価を受けている部分を整理しないとイケない。例えば、現状と課題というのをやめしにし、良いところと課題という書き方にするのはどうか。従来の書き方では、交通特性や人口の動向で現状を把握したくなる。

前回の案では、アンケートに基づいて市民の方々が不安に感じているところや良いと思っているところを抽出していただいていたと思う。それに沿うような形で統計資料を付けるという形のほうがいいのではないか。それを解決するための目標が書ければいい。

4つの都市づくりの目標がでてくる背景を1章で読めるようにしなければならない。そのうえで、これが必然的に良い目標だと思えるようなものにしてほしい。課題だけでは元気がなくなるので、良いところも入れるべき。

<都市の変容について>

P.7に都市化の進展と都市の変容の経緯とあるが、これがかつての都市化の進展とあらたな課題だった部分になると思う。ただ、ここではニュータウンや宅地化の課題が書いてあるだけ。

これまでの川西の変遷が写真と文章で表現されていれば市民の方にも理解してもらいやすいと思う。昔のオーソドックスなプランニング手法は変えていっても良いかもしれない。

<まちづくりの方向性について>

4つの目標に入る前に、2-1に都市づくりの基本理念があるが、ここでもう少しまちづくりの方向性を書いておく必要があると思う。

3. 第2章について

<土地利用方針について>

市民がこのマスタープランを見たとき、自分の住んでいるところがどのような色で塗られているのか気になると思う。いまの段階で図はP.24とP.29にしかない。P.24の図は塗られていないところが多い。一部に都心核、地域核、自然共生拠点が示されているが、そこ以外は何も書かれていない。自分たちが住んでいるところが都市構造から外れているように感じてしまう。軸しか書いていないのでこうなるのかもしれないが、何か色を塗ることはできないか。

<将来像のイメージについて>

2 - 2は昔ながらの構成になっているが、3 - 1都市づくりのテーマの設定では、暮らしにフォーカスをあてた切り口になっている。ここに、将来像のイメージ図があってもいいと思う。

2 - 2が3章の後にいき、3章の前に将来のイメージ図があれば解決するのではないか。土地利用方針図はこれとして必要。

<基本理念について>

基本理念のところ、将来めざす市全体の概念図がいる。

3 - 1は2章と一緒に良いと思う。2 - 2のハードの部分だけ3章に入っても良い。基本理念の下で都市イメージの図と文章でしっかり語られていることが必要。

4. 第3章について

<全体的な書きぶりについて>

3章は、具体的に書きすぎではないか。2 - 2を引っ張りすぎている。もう少しテーマごとの説明が必要。例えば、P.34の良好な住環境の維持・形成の下にニュータウン等の戸建て住宅地等の再生についてだらだら文章を書くよりも、ニュータウンの再生や、既成市街地について、いくつか項目をあげるぐらいのイメージで良い。ここに舎羅林山の話まで書き込むのは行き過ぎのように感じる。

交通が専門ということもあるが、すべてのテーマに交通が入っていても良いと思う。テーマ1「暮らしの要素が充実した」では交通は重要である。テーマ2の「特徴とにぎわい」と聞くと再開発等しか思い浮かばないかもしれないが、そこを使うためには公共交通を使って郊外の人にも来てもらわなければならない。それが、エコなまちづくりの構築にもつながっていく。

3章で細かく書かれている内容を、2 - 2で行政の分野別施策の並びでまとめることはできるのか。住宅系土地利用の方針の中で細かく充実させていくということ。

テーマ別と言いながら、分野別の細かい内容を並べただけになっている。また、テーマに必要と思われる内容も書かれていない。例えば、既成市街地の話がでたが、川西の中心部の既成市街地については何もなく、空港周辺のことだけが書かれている。これできちんと書いていると言えるのか。書いてある内容に、個別事業的なものが多すぎる。その前に書かないといけないことが抜けている。P.34以降をシェイプアップし、足りないものを追加すればいいかもしれない。

テーマ1の内容が細かいので個別案件のように感じたのかもしれない。テーマ3や4のようにふわっとした書き方なら違和感がないのではないか。

3 - 2はそういう形で、書きすぎているところは削り、足りないところは付け足して、テーマ別の方針がわかるようにする。その後ろに2 - 2の具体的なハードな部分を入れ、その後ろに地域別構想がくるということが良いか。

<地区計画の必要性について>

地区計画があるために福祉施設や商業施設が入れないことがある。暮らしの要素が充実した川西市を目指すなら歩いて暮らせる範囲にいろんなものがあるほうが良い。

地区計画の制度自体の問題ではなく、今の地区計画が足かせになっているということ。

すでに、老人ホーム等の話も出ている。活性化も考え、規制をしすぎないように先行して取り組んでいる。見直しも重要だと思う。

<方針図について>

図の書き方として、線で明確に地区が分けられている。なるべく線をぼやかして連続的に続く感じのマスタープランにしておかないといけないのではないか。

○P.29の土地利用方針図を見ても、なぜ今さら計画的開発地区と規制市街地地区を別にするのか

とってしまう。違うことには変わらないがいつまでもそんなことを言っていてはいけないのではないか。

<市民の取り組みについて>

市民の取り組み内容については、地域別のほうにもでてくる。そちらでは地名も書いてあり、特色が出ていると思うが、微妙な書き分けがされているのが気になる。

市民の取り組み内容は、テーマ別に残しておく方が良いのか、地域別にいれるのかどうか。行政が考えていることと市民がこういう側面で参加するということがわかるので残した方がいいかもしれない。

市民の取り組みと市がやることに同じ内容が書いてあるところがある。最終的には協働してやるわけなので書き分ける必要もないと思う。

防災のところに自治活動を支援する、地域の見守りの目を育てるといった文言がない。

5. 第4章について

<地域区分について>

地域分けはわかりやすくなった。

地域名をもう少し考えても良いと思う。

北部地域と 中部・北地域は、もともと旧東谷村で同じコミュニティになる。また、 中部・北地域は、要綱で北部という概念もある。総合計画の部門からは中部ではなく北部になるという意見もあり、現在議論中。住民も北部に住んでいるというイメージが強いようなので、場合によっては、中部から北部になるかもしれない。

旧の地域名では呼ぶことはできないのか。

旧の地域名にしてしまうと、境界が難しくなる。ただ、 中部・北地域の西の端に入っている石道という地域は、実際の使われ方からも東谷村には入らないので、 中部・西地域に入れるということで調整している。

<地域別方針について>

P.46の地域別の図はこれより前にでてきた図とほとんど情報が同じ。また、P.55の図も普通の土地利用図でどこが方針図なのかわからない。これで良いのか。

P.47、48の北部地域には、人口が150人程度と非常に少ない、65歳以上の割合が約5割で高齢化が非常に進んでいる、里の暮らしの維持継承、程度しか生活のことが書いていない。住んでいる人がどうすれば良いのかわからない。

一番交通が不便なところにもかかわらず、交通に関しては何も書いていない。地域の特性に住民の視点がない。今後の自分たちの環境を心配している人たちへの配慮が足りないのではないか。

2-2に“集落地では、生活道路などの生活環境施設の充実に努め、定住環境の維持に努める”とは書いてあるが、地域別にもこのベーシックな部分をおさえたいうえで計画を進めていくということを入れてほしい。

例えば、商業施設集積地を整備し日々の暮らしを支える施設にするということが書いてあるなら、それを地図上で示してほしい。

地域づくり方針図で地域核がないというのはおかしい。医療、介護、娯楽も暮らしの中の要素になると思うが、入っていない。

6. 第5章について

<市民の取り組みについて>

5-2の市民の取り組みに対して、5-3は行政の取り組みとなるが、「都市計画マスタープラン

にもとづくまちづくりの推進」というタイトルではわかりにくい。行政が推進するということがわかるようにしたほうが良い。

P. 69の4行目に“都市づくりにおける重要な担い手である市民への期待も増大している”とあるが、なぜ、ここにきてこれを書く必要があるのか。最初に一緒にやりましょうと言っているのでこれは要らない。

P. 69、5 - 2の2に“公共心”という言葉があるが意味がわかりにくい。将来の都市に関する望ましい姿を共有し、実現のために公共心を育んでいこうというような説明がある。

<各節の記載レベルについて>

5 - 2と5 - 3はレベルを揃えたほうが良い。5 - 2も5 - 3のように3つの項目の下に細かい内容があるという書き方に合わせたほうが良いと思う。

5 - 2の2と6は内容が近い。3の公共交通の利用の促進についても将来のことを考えて公共交通を利用しようということで近い部分がある。もう少しカテゴライズし、見出しを付けていただきたい。

5 - 3の3つの項目は突出している気もするが、まだ編集の途中ということもある。